



さいとう よしひこ
齋藤 好彦 議員

高齢者等の 情報弱者対策を 防災行政無線で早めの避難誘導に努める



情報弱者に配慮した戸別受信機

【質問】 近年の情報化社会のなかで、高齢者等の情報弱者は災害時の避難活動に大きな影響を及ぼすと言われている。こうしたなか、本町が他自治体に先駆けて町民生活の利便性向上を目指した、デジタル化推進計画事業の活用などにより、地域、官民連携による高齢者等の情報弱者対策が必要であると考えます。町長の考えを伺います。

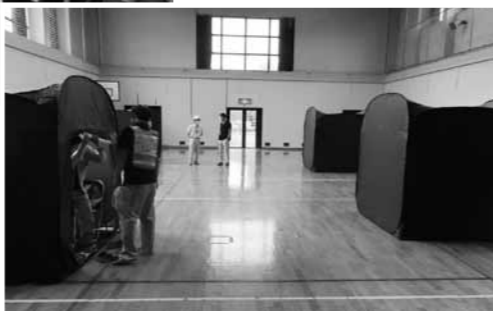
【町長】 令和元年度の防災行政無線デジタル化改修事業を計画する際、各家庭に設置する端末を、スマホ・タブレット方式にすべきか、これまでと同様の戸別受信機にすべきかの検討を行いました。導入コストは高くなりませんが、「情報弱者」に配慮して、戸別受信機を全戸に導入しました。戸別受信機には、高齢者等「情報弱者」対策に万全を期

複合災害に備えた 体制強化を 防災計画等の 見直しを図る

【質問】 長期化が予想される感染症対策と、いつ起こるか予測がつかない自然災害の複合災害に備えた対策が急務であり、より一層の体制強化を図る必要がある。また、複合災害に備えた防災訓練の実施、自主防災組織、防災計画の見直しなども必要であると考えます。町長の考えを伺います。



本番さながらの
避難所開設訓練



プライバシーシート設置訓練

【町長】 今年度のコロナ禍での避難訓練は、福祉避難所「てとて」と堀内農村環境改善センターにおいて、町で策定した各々の運営マニュアルに従い避難所開設訓練を実施しました。昨年の訓練の反省を踏まえて幾分改善しましたが、受付時に時間を要することや、どうしても密になってしまうことなどが課題として挙げられ、プライバシーシートや簡易ベッドの設置に想定以上に人員を要することも判明いたしましたので、今後、対処方法を検討して参ります。また、警戒レベルの改正に伴い、防災計画は改訂する必要があり、その他の事項も含め、今後必要な見直しを図って参ります。



いとう きんいち
伊藤 欽一 議員

通学路の事故防止対策は 地域住民の理解が必要



鉄筋網の蓋がかけられた通学路

【質問】 今年6月に、千葉県八街市において下校中の児童の列にトラックが突っ込み5名が死傷するなど痛ましい事故が後を絶たないことから、文部科学省、国土交通省及び警察庁の3省庁が連携し、通学路における交通安全を一層確保するため、緊急点検の実施依頼が出さ

れたが、実施内容と対策について、教育長に伺います。
旧舟小跡地から定泉寺の間、側溝蓋が鉄筋で掛けられた箇所があり大変危険と思うが改修する考えがあるか、伺います。

【教育長】 この度の緊急合同点検については、①見通しの良い道路や幹線道路の抜け道になっている道路など車の速度が上がりにくい箇所や大型車の進入が多い箇所、②過去に事故に至らなくてもヒヤリハットの事例があった箇所、③保護者、見守り活動者、地域住民等から町村への改善要請があった箇所、の3つの観点を加味した対応が要請されています。町では、過

去に報告された通学路等の危険箇所の点検報告について、現状など再度確認をし、9月末を目途に対応策が必要な箇所の抽出、10月末を目途に対策案を検討します。

鉄筋網については、排雪作業での利便性もあることから、地元住民の理解を得る必要があり、除雪に関係ない箇所については検討します。また、登校時間帯はスクールゾーンに設定されていますが、道幅も狭く、通り抜け道路として利用する方も多く、住宅やアパートの建築により移住された方も増えていますので、下校時間帯についても、スクールゾーンの設定ができるかどうか検討します。



10cmの段差が生じている県道56号線(一の関地内)

町道等の危険箇所 修繕を

降雪前に修繕を完了

【質問】 下水道のマンホール、水道の弁蓋等の不具合は降雪前まで修繕が必要ではありませんか。県道56号線で車道路肩部が約100mにわたり段差が生じ危険であるが、早急に修繕するよう県に要望

する考えはあるか。

【町長】 下水道マンホールの高い場所や除雪作業時の危険箇所は、毎年降雪前に現地を把握し随時修繕を行っています。県道56号線の段差は、現地確認したので早急に修繕してもらおうと県に報告しました。